

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372200446		
法人名	NPO法人 不知火福祉会		
事業所名	グループホーム白梅の里(南館)		
所在地	熊本県宇城市不知火町亀松543		
自己評価作成日	平成22年11月20日	評価結果市町村受理日	平成23年1月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本三丁目13-12-205号		
訪問調査日	平成22年12月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ご家族様が、ご利用者様の状況がよくお解り頂く様、又、安心して頂ける様に、あった事はすべてご報告している。又、職員はご利用者様の事を心の底から、愛しく想い、日々お世話をしております。終りの住みかにかにふさわしいアットホームな白梅の里を過ごして頂きたいと思ひます。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>法人の理念“一期一会”を基盤として、この一年新職員体制のもと、“常に利用者の安全に配慮した介護に専念をする”ことをモットーに、日々の申し送りの徹底によりケア統一を図り、穏やかな日常生活を支援している。ユニット毎の介護度、身体状況の違いはあるものの、入居者個々の思いや何気ない言葉にも耳を傾け、《業務は後回し、見守り優先、その瞬間を大切にす》ことを全員が共通認識としていることは、爆竹の音に興味を示す入居者の様子に運動会へ出かけ、ホームから愛でる桜の開花状況にその日の天候により花見に出かけ楽しんだ事等に表れている。家族とのコミュニケーションの重要性を十分認識し、機会ある毎に会話に努め、情報の開示が家族からの信頼となり協力も得ることが出来ている。9月には市の男女共同参画推進事業者として表彰されており、今後も馴染みの職員でのケア継続に大いに期待したい。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一期一会の理念をいつも心掛け、又月々の職員勉強会でも、再確認いたし実践している。	法人の基本とする“一期一会”をもとに、今年度は職員遵守の中に“常に利用者の安全に配慮した介護に専念をする”ことを掲げ、始業前に個々が確認してケアに入っている。理事長及び管理者はここでの出会いを大切に、介護度等の如何に関わらず平等に接すること、入居者や家族とのコミュニケーションに心がけること等全職員に常に指導している。大きく掲げた理念の実践に、全員が共通認識で真摯に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事、老人会活動に参加したり、環境美化リサイクル活動に積極的に参加させていただいている。	毎月開催される子どもから高齢者まで集う町福祉会への参加や地域のリサイクル当番として仕分け作業への参加、環境美化運動の一環である花壇作り等へ入居者とともに参加する等地域の一員として積極的に活動している。ホームの創業祭には近隣住民の参加もあり、幼稚園児・小学生の慰問や中学生の職場体験等も受け入れ、交流を図っている。今年にぎわいを見せた納涼祭(花火大会)に、今後近隣住民にも声かけする意向である。	今後も近隣住民に行事のみならずホームに気軽に立ち寄ってもらえるような工夫に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアで、訪問された方々には、認知症の人の姿をありのまま、見て頂きご理解を深めてもらえる様接している。災害時には、避難場所として受け入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当事業所の取組みを話し、評価して頂いたり、アドバイスを受けてりしながらサービス向上に努めている。	2ヶ月毎と定例化した運営推進会議は毎年計画を立て開催している。交番や消防署等の参加もあり、9月には交通安全協会指導員による交通道德が行なわれ、入居者も参加されている。家族には参加の声かけを行なっているが、参加者は少なく議事録の送付により情報の共有化としている。	充実した運営推進会議ではあるが、今後ホームの課題や家族の興味ある議題の選定、参加できる日程を家族に相談する事等も検討し、行政・地域委員・家族・ホーム側との意見交換がホーム運営に反映されることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の実情や悩みなどを、アドバイス受けたりしている。	運営推進会議終了後行政担当者との情報交換や毎月担当者との連携により生活保護者を支援している。ブロック会議に包括支援センターからの参加もあり情報交換を行っている。	管理者の変更に伴い、まずは老人会・区長や民生委員との関係作りに取り組んでおり、今後、行政との関係構築に取り組む意向である。まずは外部評価結果提出時からホームの現状等情報を発信していただきたい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月々の職員勉強会で、事例を話し、決して身体拘束をしない様、又、玄関は自由に入りが出来るよう開かれているが、見守りは、厳しく行っている。	身体拘束の弊害を全職員が認識し、入居者個々の心身の状況の把握により開錠し自由な生活を支援している。外出傾向に見守りと一緒に手をつなぎ散歩に出かける等観察力と気づきをもって支援している。運営推進会議の中でも外出傾向の強い入居者を開示し、地域住民からの見守り支援の協力も得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	色々なセミナー等に積極的に参加し、勉強し、内容を他のメンバーにも伝え決して虐待がない様、言葉等にも注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	時間をつくり、セミナーに参加し、勉強してきた事を、他の職員に資料を配布しながら伝えられている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約は、もとより、改定等もご家族様の納得いかれるまで充分説明を行っている。今迄すべて理解納得頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関口には、意見箱を設置すると共に、いつでもご家族様には、何か要望はありませんかと声掛けし、あればすぐに対応しご納得して頂いている。	今年度は管理者を中心に家族との関係構築への努力が実り、家族の訪問時状況を説明し意見や要望を聞き取りしており気兼ねない意見等が寄せられているとともに入居者の落ち着いた生活となって表れている。年2回の行事後家族会も問題提起の場としてホーム運営に生かされている。	毎月家族に配布されるホーム便りは、入居者の日常の様子や次月の行事予定等の掲載等家族と共に支えるという姿勢が表れており、家族からも好評を博している。今後も便りの中に職員紹介等も入れることで顔の見える介護としたり、家族の要望や意見をサービス向上に反映されることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する、意見は勉強会の時だけでなく、ご利用様が不自由な事がない様、遠慮なく言い合える様心がけている。	管理者は申送り時に職員の意見や提案を聞いたり、職員の表情等から状態を把握し相談にのる等職員のメンタルケアに取り組んでいる。職員もシャワーチェアの活用や汚物の保管場所等入居者の心身状況を把握し具体的な改善を図っており、観察力や気づきを持ったケアに取り組んでいる。理事長と管理者との運営委員会の開催や毎月の勉強会の中で意見交換により、サービス向上に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人の能力を十分理解して頂き、考慮してもらっている。皆楽しくやりがいを持って業務を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ブロック会議やセミナー等に参加させて頂き、ケアに対し、資質の向上の場を提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ブロック会議や勉強会に参加し、他の事業所の人とのコミュニケーションを図り当事業所の向上につながる様取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	笑顔で優しい気持ちで、ご本人の話し、行動を受け止め信頼関係を築いていく様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が、安心して頂ける様困っている事、不安な事を言ってもらえる雰囲気をつくりこちらお話しお聞いて頂き、良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様と、ご家族様の話しを良く聞き、ホームで出来る限りのサービス支援をして、ご満足頂ける様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活で、本人が出来る事は、お願いし、「まだ私も、役立つ」という思いをして頂ける努めている。知恵を頂いた事もあり感謝している事を伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	担当者を決め、月1回里便りにて、本人様の状況をお伝えし安心して頂き、行事の時は、参加をお願いしたり、協力して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけ(馴染み)の理容室・美容室に行かれたり、ご友人の所へご利用者様を連れていったりしている。	馴染みの理美容院や「家に帰ってみたい」との希望に自宅訪問を支援したり、友人の自宅までの送迎、墓参や盆・正月の帰省等家族の協力も受けながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共通の歌を歌ったり、ゲームをしたりレクレーションの充実を図り、孤立した人がいないよう声掛けは、常にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時は、どうされているかなという思いはあるが、日々の生活に追われなかなか行動が伴わないのが現状である。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々生活の中で、介護計画作成時、アセスメントにて個々の思いや意向を聞き取り、把握に努めている。又、直接の把握が難しい場合は、生活の様子を観察し家族の意向等を本人の身になって、本人本位に検討している。	職員は見守りを優先させ、入居者一人ひとりのその瞬間を大切にケアに取り組んでおり、その中で思いを引き出し、職員同士の話し合いやホームで対応出来る事は家族に相談しながら思いに応えている。「畳の上で横になりたい」との一言を聞き漏らさず、家族参加の担当者会議の中で話し合い、居室にカーペットを敷き、横になるスペースを作る等本人本位になるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、本人と家族に生活歴・環境等の必要事項を修得、その後も必要に応じ反映させ、個々に応じた生活が更に助長する事に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の日々の、生活の様子、心身状態有する力等の総合的に観察、記録情報の共有を行い、個々に即した対応で安心した生活が出来よう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時、本人・ご家族・スタッフが、サービス担当者会議を行い、意見を反映させ、本人本位を基本とし個々に即した介護計画を作成し、主治医等が必要な場合、その旨反映させている。	入居者一人に2名の担当制として、毎月のモニタリング、長期目標の6ヶ月毎に総合評価を行い、認定更新に合わせた時期に再作成している。又、入退院の見直しや心身の状況変化に応じて随時朱書きでの追記により現状に即したプランとしている。入居者個々がよりよい暮らしができるよう詳細で具体的なプランである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画を基に、記録、日常生活の様子等を観察し結果を個別に記録しそれらの情報を共有すると共に、介護計画の見直しに活かし対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	専門的リハビリが必要な入居者様には、訪問看護(リハビリ)鍼灸・歯科通院・往診・訪問理・美容等といった可能な限り、個々に応じた、各サービス等を支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	希望があれば、理・美容室等に送迎し馴染みの方との交流を継続し、地域の清掃・花植え福祉会活動に職員、入居者共に参加し地域住民と交流、社会参加支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に、2週間に1回の往診と本人及び家族が、希望した時は、他の医療機関への定期的な受診が出来る様支援している。	入居時にかかりつけ医について説明を行い、本人、家族の了承を得てホーム協力医への移行をしている。2週間に1回の定期往診や必要に応じ総合病院での受診に家族と協力しながら対応している。毎日のバイタルチェックで異常があれば数回の再チェックを行い入居者の状態変化を見極め早期受診に繋げている。3名の看護職員の配置は入居者や職員の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の観察、気づきを大切にし異常の早期発見に努め、必要時には、看護職へ報告、相談し24時間適切な早期対応が出来る体制となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、必要な介護情報等を提供し、可能な限り継続した介護生活を送る事で、治療に専念し早期退院につなげる。又、入院中病院関係者より情報を得、退院後円滑な退院及び退院後生活が送れる様支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化及び、終末期に向けては、本人・家族・医師必要関係者で話し合いを行い、ホームでは出来る出来ないの説明をし本人・家族の意向を尊重し、医師及び関係各位と連携し、可能な限り意向に沿った支援をホーム全体で取り組んでいる。	重度化や終末期に向けたホームの方針を明文化し、本人、家族に対し段階を踏み説明を行い、その都度家族からの相談に応じている。ホームで可能な限りの対応を家族や協力医と連携しながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練等は行っていないが、経験の浅い職員には、応急手当・初期対応は不十分だがその都度、対応法を学ばせ指導している。看護職及び実践力のある職員、ホームドクターと連絡を取りあい早期対応に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署のご協力のもと、避難訓練を行ったり、講義を受けたり、又、運営推進会議のメンバーの方にも参加して頂いたりして行っている。	本年度、2回の火災訓練を実施し、昼・夜間を想定した避難や消火等の総合訓練を行っている。ホールに掲げられた「職員尊守」の中に「まずは出火の原因を作らない」として日々、火元確認や連絡網の徹底を行っている。消防団との交流を図る意向である。	近隣住民に訓練日の周知を図り参加を依頼しており、今後も地域住民や地元消防団とも連携し協力体制が築かれる事を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者のプライバシー確保を、基本的に厳守し常日頃より、ご利用者に対し尊敬と尊厳を持って接するよう代表者からも、強く指導受けている。	代表者は日頃より入居者に対する言葉使いや対応について職員と話す機会を持ち、入居時に守秘義務に関する誓約書を交わしている。排泄時の声かけや対応が入居者の誇りやプライバシーを損なわない様心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴・食事・衣類の選択など、又行事の参加など自己決定の支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の思いや、意向を第一に日々の生活を考えてご本人のペースを大切にお手伝い行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望で、散髪したいと言われれば、その気持ちにそって支援している。一緒に買物に出かけて好きな物を買われる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	アセスメントで、嗜好を聞き、メニューに加えて楽しみを持って頂く、又片付け等一緒にして頂いている。	本人や家族から個々の好みを聞き取り献立に反映している。菜園で採れた野菜や近隣住民の差し入れ野菜も食卓に上り、入居者は職員と共に梅や柿の収穫も味わっている。ユニット間で身体レベルの差はあるものの食材の皮むきや食器拭き、テーブル拭き等、入居者も出来る事を手伝われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の摂取を把握し、少ない時等対応を行っている。栄養補助等。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の、口腔ケアは、うがいと歯磨き、又就寝時には、入れ歯ケアを行い清潔を保てるように支援している。本人希望で、歯科受診の支援も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間をみて、トイレの声掛け誘導し、一人一人のパターンを把握し、なるべく失敗がないように支援している	夜間、ポータブル使用の方へも日中は定期的な声かけや誘導によりトイレでの排泄に繋げている。職員は入居者の表情や仕草から排泄のサインを見逃さない様に支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認を、毎日行ない、記録している。水分補給を心掛け、食物繊維の多い食べ物を必ず取り入れるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は、夏場は、毎日出来るだけ入られる様声掛けを工夫し、冬は、脱衣所の温度管理を行い清潔な体、褥瘡の有無、異変を早期発見する為にも入浴の支援を行っている。	個々の希望に合わせてゆっくり時間をかけ、入居者と会話をしながら支援している。本年度は身体レベルの低下に伴い、車イスごと入れるシャワーチェアを導入し、入居者の笑顔を引き出し、失禁時にはシャワーで対応しているが、冬場はそのまま入浴を勧め、清潔保持と保温に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調又、気分に応じて、休んでもらったり自由に穏やかに過ごして頂きたいと支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は、すべて職員が管理し、指示された時間にその都度服薬の支援を行っている。服薬による変化も、かかりつけ医に報告し連携をとりながら行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の楽しみを見つけ、笑顔が見られる様又、自分も役立つという気持ちを持って頂けるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じて頂きたいと、外出を支援している。近くの神社までの散歩だったり、小学校の運動会見物だったり、とても気分が変り喜ばれる。	小学校から聞こえる爆竹の音に興味を示す入居者の様子に運動会へ椅子持参で出かけ、ホームから愛でる桜の開花状況にその日の天候により花見で楽しみ、温泉センター等に全員で外出する等、管理者の「業務は明日でも出来るが、ケアは今しかない」をモットーにした支援に職員が共有認識で取り組んでいる。、家族の協力により日帰りのドライブや食事、外泊等も支援されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様の協力を得て、本人様の好きな物を職員が購入してきている。一緒に買物する方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の、希望に応じて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節によって、展示品を変えたり、又生活空間は、常に清潔に、危険がない様努めている。	事務所を中心に両ユニットの玄関があり広々とした廊下が続いている。多目的ホールには入居者の書や塗り絵の作品が飾られ、会議の場としても利用されている。広い中庭はホームの創業祭や食事会、花火会等に活用している。食堂やトイレ、浴室等も清潔に保たれ、明るい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓の隣に、ソファを置き好きな時、テレビを見たり、お話しすることが出来る空間づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が、心地よく過ごせる空間をつくり安心して我が家と同じ気持ちで穏やかに暮らせる工夫をしている。	各居室にはテレビや衣装ケース、家族の写真等、必要な物が持ち込まれている。仏壇に供物や花を備える入居者もおられ、家族の協力で花を買いに外出されている。日当たりの良い居室は異臭もなく整理され思い思いの部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存能力が、生かせる工夫と、生きている事の実感を喜びに変える生活をあじわって頂ける様努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372200446		
法人名	NPO法人 不知火福祉会		
事業所名	グループホーム白梅の里(東館)		
所在地	熊本県宇城市不知火町亀松543		
自己評価作成日	平成22年11月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本三丁目13-12-205号		
訪問調査日	平成22年12月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎月、里便りという形で、ご利用者の家族に、1ヶ月間の行事等の説明と、ご本人の生活状態を報告し、今ホームでは、何が行われているかが良く分る様行っている。 一期一会に基づく、出会いの大切さを深く、信頼という形になる様日々努力を重ねている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一期一会に基づいて、職員個々が尊守し日々実践を心掛け職務にあたっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の福祉会等の参加によりコミュニケーションを図っている。環境整備又リサイクル活動に積極的参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事及び諸事業に積極的に参加し、認知症の理解を深めている。又、災害時には、避難場所として受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	有識者の意見等を尊守し、職員へ報告、出来る限り実行する様努力してサービス向上に向け努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政・町内会及び他の団体との連携を密にし、関係を築くよう努力している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、ひと月2回の職員勉強会にて、特に強くケアマネ・及び管理者より指導している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市主催の研修会や県の主催の研修会等に積極的に職員が輪番制で参加し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	県・市の研修会等を輪番制にして全職員参加し、理解する様に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定の際は、書面にて通達、説明とご納得頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回家族会を設け、意見の集約を図り反映している。又、玄関に意見箱を設置し、ご意見を収集し職員の資質の向上を反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の個々の介護についての状況を毎日、申し送りの際聞き取り、反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	明るい職場を目指し、職員の意見等を代表者に上げ理解を求めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人に、上司及び管理者より、職場における指導等行い、長く勤務出来る様やりがいを見出すよう心掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同じ、施設及び福祉関連との交流、町のスポーツ及びブロック会議に参加交流を図り、介護技術の向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望を細部にわたって理解し、また本人が望む事を確実にやっていくよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	先ず、感情・思想の伝達をつくり、良く話し合い今、何を望んでいるかを理解し実践している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	良く現状を知る為、話を聞き、サービス出来る事を上げて対応している。又、家族等の意見を十分に尊重し、反映する様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご家族の一人である自負のもと、ご本人の持ちよう、特技等見出し、職員も一緒に楽しい日々を過ごせるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	介護計画に基づき、ご家族の要望等十分採用するようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が、来られたら又、次に来られる様な環境づくりを図っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が、理解し協調できる対応をする努力を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了しても、白梅の里便り等発送し、ご家族との交流を維持している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、生活の中で、介護計画作成時、アセスメントにて、個々の思いや意向を聞き取り把握に努めている。又直接の把握が難しい場合は、生活の様子を観察し、家族の意向等を本人の身になって本人本位に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時は、本人と家族に生活歴、環境等の必要事項を修得、その後も必要に応じ反映させ、個々に応じた生活更に助長する事に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の日々の生活様式、心身状態等の総合的に観察、記録情報の共有を行い、個々に即した対応で安心した生活が出来る様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時、本人・家族・スタッフが、サービス担当者会議を行い、意見を反映させ、本人本位を基本とし個々に即した介護計画を作成し、主治医等が必要な場合、その旨反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画を基に、記録・日常生活の様子等を観察し、結果を個々に記録しそれらの情報を共有すると共に、介護計画の見直しに活かし対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	専門リハビリが必要な入居者様には、訪問看護(リハビリ)、鍼灸、歯科通院・往診、専門理・美容等といった可能な限り個々に応じた、各サービス等を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	希望があれば、理・美容室等に送迎し、なじみの方との交流を継続し、地域の清掃・花植え福祉活動に職員、入居者様ともに参加し、地域住民と交流社会参加を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に、2週間に1回の往診と本人及び家族が希望した時は、他の医療機関への定期的な受診が出来る様支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の観察、気づきを大切にし異常の早期発見に努め、必要時には、看護職へ報告、相談し24時間適切な早期対応が出来る体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、必要な介護情報等提供し、可能な限り継続した介護・生活を送る事で治療に専念し早期退院につなげる。又、入院中病院関係者より情報を得、退院後円滑な退院及び退院後生活が送れるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化及び、終末期に向けては、本人・家族・医師・必要関係者で話し合いを行い、ホームでは、出来る出来ないの説明をし、本人・家族の意向を尊重し医師及び関係各位と連携し、可能な限り意向に沿った支援をホーム全体で取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練等は、行っていない。経験の浅い職員には、応急手当・初期対応は、不十分だが、その都度対応法を学ばせ指導している。看護職及び実践力のある職員、ホームドクターとの連絡を取りあい早期対応に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回は、消防署のご協力のもと避難訓練を行い、地域の人達にも参加して頂き協力して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊敬し、その人が、気付かない様な言葉かけ等を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が、何をしたいのか良く理解し、希望を聞き自己で判断出来る様促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合に合わせる介護ではなく、その人に合わせる介護に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい生活が、出来る様身だしなみ等をきれいにし、生活が出来る様支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人一人から嗜好を聞き、出来る限り好みに合った食事ができる様支援している。又、一緒に準備及び片付けを楽しく行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量、水分の量を記録し、不足のない様な対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人口腔ケアを行い、口の中をきれいな状態を保つよう行っている。また、本人希望、歯科受診も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを読み取り、出来る限り、習慣づけさせる様支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に対しては、かかりつけ医と協力し、薬を処方又、食事に工夫をし排泄出来やすい環境づくりを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	食事と同じ様に、入浴が楽しくなる様な、努力と企画で入浴を促す(菖蒲湯・みかん湯等)		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠に関しては、出来る限り昼夜逆転しない様支援し、休息は、昼寝等を促し気持ちよく眠れる様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	何故この薬が、必要なのか職員が理解し、症状の変化等の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人楽しみを聞き、楽しみ事が、出来るように又、自分で出来る役割を見つけて支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者は、高齢の為出発を前に、体調の関係から中止する事もあり、さらに一人一人の意見を聞き、外出の希望に応じて対応出来る様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の使用については、ご家族とご利用者に良く説明し理解を得て、使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等への連絡は、本人が望んだ時は、すみやかに応じて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ、居心地よい状態である様な、飾りつけ等に配慮を行い支援している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本的に共用空間は、リビングなので、リビングと自分の部屋を自由に往復出来る様な支援を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、個室にて自分にとって安心出来る居室であるように支援している。又、今迄使用していた家具・布団を使用し、我が家の状態を保つよう努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設自体バリアフリーにて、一人でどこでも行ける空間となっている為、安全及び安心の生活を支援している。		